

平成23年度 事業計画書

学校法人 文理学園

目 次

【 1 】 学園の事業計画（概要）

1 . 学園の教育環境整備

- (1) 日 本 文 理 大 学 . . . 3
- (2) 日本文理大学附属高等学校 . . . 3
- (3) 日本文理大学医療専門学校 . . . 3
- (4) NBU大分美容専門学校 . . . 3

【 2 】 設置校の事業計画

1 . 日 本 文 理 大 学

- (1) 中長期改善施策計画の推進 . . . 4
- (2) 教育活動 . . . 4
- (3) 研究活動 . . . 6
- (4) 広報・学生募集活動 . . . 6
- (5) 就職活動 . . . 8
- (6) その他 . . . 8

2 . 日本文理大学附属高等学校

- (1) 教育活動 . . . 11
- (2) 広報・生徒募集活動 . . . 11
- (3) 進学・就職進学活動 . . . 12
- (4) その他 . . . 12

3 . 日本文理大学医療専門学校

- (1) 教育活動 . . . 13
- (2) 学生生活 . . . 14
- (3) 広報・学生募集活動 . . . 15
- (4) 就職活動 . . . 15
- (5) その他 . . . 15

4 . NBU大分美容専門学校

- (1) 教育活動 . . . 17
- (2) 学生生活 . . . 17
- (3) 広報活動 . . . 17
- (4) 就職活動・キャリア支援 . . . 18

平成23年度 事業計画書

学校法人文理学園は、「産学一致」の建学の精神に基づき地域社会との連携をこれまで以上に緊密なものとし、平成21年度よりスタートした中長期改善施策3年目の中間期として、教育環境の充実を図り、財政基盤を堅固なものにすることを念頭に置き、平成23年度事業計画を作成した。

【 1 】 学園の事業計画（概要）

1. 学園の教育環境整備

学園の教育環境整備を以下のとおり計画する。

【共通検討事項】

経年老朽設備等改修及び建物耐震化対策

構内環境整備

地上デジタル放送対応

（ 1 ） 日 本 文 理 大 学

図書館 監視カメラシステム更新(期)

経営経済学部棟 館内整備(講義机・椅子更新)

第1体育館ライン引き直し及び床補修、漏水対策

サテライトセンター(レスリング練習場) 改修

野球場電光掲示板改修及び芝張替計画

重要書類、永久保存書類保管に伴う文書保管庫整備

冷暖房設備機器整備

NBU情報センター 電気空調設備更新

（ 2 ） 日本文理大学附属高等学校

体育館ライン引き直し

機械実習室整備

浄化槽公共下水道管接続

敷地外周塀・門扉改修

（ 3 ） 日本文理大学医療専門学校

特になし

（ 4 ） N B U 大分美容専門学校

特になし

【 2 】設置校の事業計画

1 . 日本文理大学

(1) 中長期改善施策計画の推進

平成21年度に策定した「中長期改善施策計画」を環境変化に対応して見直し、引き続き大学改革を推進し、「平成25年度定員充足率100%・消費収支黒字化」実現のため、資金収支の均衡化を第一目標とする。

(2) 教育活動

学生満足度向上に関する取組み

- ・「社会人基礎力育成グランプリ」、「大分県街なかにぎわいプラン推進事業」に対して、本年度も積極的に参加を目指し、各種のプロジェクト活動に取り組む。
- ・ NBUチャレンジプログラム（正課外プログラム）を関係部署が連携して実施するとともに、全体を取りまとめた「総合案内」を発行する。人間力育成センターを中心にプロジェクト活動、一部の資格講座、検定試験の準会場実施を行い、学生の間接力の向上を図る。職員を中心とした企画・運営で多様なプログラムを展開し、学生の学びのキッカケづくりを行い、学生の学習意欲・人間力を高める活動を推進しながら、満足度の向上につなげていく。特に女子学生の支援に力を入れたい。
- ・ 大学教育サービスセンター及び関連部署の職員が中心となった学生情報の収集・整理を進める。入学から卒業までの情報を学生別に集約し、退学防止などを含む様々な問題解決のための糸口とする。
- ・ 新入生意識調査を行い、その後の意識の変化をフォローし、満足度向上と退学防止に活用する。

教育内容の充実に関する取組み

- ・ NBUチャレンジプログラム（正課外教育）を推進し、学生の学びのキッカケづくりを行い、学生の学習意欲・人間力を高める活動を推進する。また、1年生からの就職対策基礎講座を充実させ、正課外プログラムと正課授業で体系化を図る。
- ・ 学生の学びの意欲を引き出すことや、満足度を向上させる取り組みとして「正課外教育」の充実を関係部署と連携して取り組む。
- ・ 文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」の年次計画の着実な推進を行い、昨年度に試験的に取り組んだ授業実施内容及び開発を行った授業内容を本格導入し、学生の就業力のさらなる向上を目指す。また、ポートフォリオシステムについて検討し、本格導入するポートフォリオシステムの方向性を確立する。さらに、FD研修会をあわせて実施し、教職員の指導力のスキルアップを図る。
- ・ 社会参画関連授業の見直しを行い、授業内容、目標、連携先等について再構築する。
- ・ 学生の日本語力の向上を図るため、なお一層の学習指導体制を構築する。また、「基礎学力講座（国語）」において、【日本人・導入クラス】を設置し、日本語力が不足す

る学生に対する「漢字能力検定講座」(別科日本語課程協力)等、着実な学習指導を実施する。

- ・ 工学部新入生については、数学プレースメントテストを新たに導入し、数学力に対するなお一層の学習指導体制を構築する。
- ・ 留学生の日本語能力向上を促進するため、効果が期待できる科目でのSA(学生補助員)の活用を引き続き促進する。
- ・ 基礎学力の定着を図るため、1年生に対する夏休み課題「スマートレーニング」、入学決定者に対する入学前教育の取組を引き続き実施する。
- ・ 基礎学力とキャリア教育の補習、自己学習の補強を目的としたe-learningシステム「UPO-NET」の本格稼働を図る。
- ・ シラバス記載内容を厳密に運用し、学部・学科等の目指す「学習成果」を踏まえて、複数の評価項目に対応した成績評価基準の明確化等を徹底する。
- ・ 今年度より、学習成果自己評価シートを導入し、学生自身の達成度評価による学修の意識改革を推進し、履修指導の徹底を行う。
- ・ FD活動の一層の推進を図る。特に、学生による授業評価アンケートの回答率のアップを図る。
- ・ GPA制度を活用した学生に対するきめ細やかな履修指導や学習支援を促進する。
- ・ 学生自身の成長等を目的として、前期から情報リテラシーの一部の授業に、TAに代えてSAを導入し、制度が定着できるよう円滑な運用に努める。
- ・ 留学生対象に、日本語教育の充実を図るため、「日本語能力試験対策講座」の実施回数を増やし、短期留学生には短期及び半期の日本語研修プログラムを実施する。
- ・ 平成23年度NBUチャレンジプログラムに併設している「英会話講座」を別科日本語課程の協力で実施する。

学生支援・学習環境の充実に関する取組み

- ・ エンロールメント・マネジメントの観点から、学生情報の集約と整理を行い、一貫した学生サービスを個別に行えるために、問題点の把握に努める。
- ・ 図書館システムを新システムに更新し、「利用サービス」や「学術情報提供サービス」等について見直し、学習支援機能の充実を図る。
- ・ 図書館内の資料配置や閲覧スペースの見直しを行い、より利用しやすい学習を提供できるように、引き続き改善を図る。
- ・ 学術情報機能の充実を図るため、専門領域におけるデータベース導入について、引き続き検討する。
- ・ 学内で生成された紀要、学術論文等をデジタル化し、「機関リポジトリシステム」という専門のシステムを活用し情報発信することについて、大分県図書館協議会で検討中の「大分県地域共同リポジトリ」に参画のうえ、継続して検討し、今年度の実施を目指す。
- ・ 図書館内の資料配置や閲覧スペースの見直しを行い、より利用しやすい学習環境を提供できるよう、引き続き改善を図る。

(3) 研究活動

マイクロ流体技術研究所は、昆虫型飛翔ロボットの研究継続と新しいネイチャーテクノロジー分野に属するマイクロ流体テクノロジー研究という二つのテーマについて、先端研究の推進を図る。マイクロ流体テクノロジーに関してはその成果の一つであるスマート・マイクロ風車の実用化に向けて、大分県商工労働部主催の新エネルギー産業化研究会に参加する計画である。

(4) 広報・学生募集活動

学生募集・広報活動に関する取組み

- ・ 18才人口の減少、経済環境の厳しさ等を反映して、本学をめぐる諸条件も大きく変化し、当初見込んだ入学者の確保が困難な状況であり、入学定員を現況に見合う適正規模とするため、平成24年度から工学部航空宇宙工学科の入学定員を60名、情報メディア学科を80名に変更する。
- ・ 定員充足達成に向けて、大学、学部、学科及びコースの特色を明確に打ち出し、関連部門が更に連携を強めて取り組んでいく。
- ・ エンrollment・マネジメントの観点から、入試広報サービス、進路開発センターだけでなく、人間力育成センター、学生サービスなどの他部署との連携をさらに強化し、教育研究活動・学生生活の充実を図り、その情報を中心に広報・学生募集活動を展開する。
- ・ 各ステークホルダーに対して、チラシ、DM、Webなどをフル活用して、タイムリーな情報提供を行い、口コミ効果等によって、着実に効果が出るような活動に取り組む。また、学内広報の更なる充実を図る。
- ・ 地域住民、小中学生の保護者、卒業生など、受験生には直接的に関係のない層に対しても、様々な情報発信を中長期的な観点からの広報・学生募集活動に取り組む。
- ・ 特別スポーツ振興運営協議会活動を踏まえ、強化サークルに関する広報・学生募集活動の更なる強化を図る。また、各サークル活動を通じた地域貢献活動推進のための窓口や交渉等の役割を担う。
- ・ Webでの広報活動や情報発信の重要性が更に高まることが予想されるため、ユーザビリティの向上や内容の充実を図ると同時に、外国語版サイトの立ち上げ、携帯サイトの更なる充実、動画メニューの充実、さらにはNBUメディアセンターとの連携によるリスク管理の更なる強化などに取り組む。また、法制化された情報公開義務についても、関係部署と連携して取り組み、スムーズな公開を図る。
- ・ 事件・事故等に備えたりスクマネジメントの観点からの広報について、他部署への意識付けや情報共有のための体制作りに取り組む。
- ・ 昨年度に引き続き、様々な外部団体との連携によるNBUの新しい魅力の構築を図る。
- ・ NBUの魅力を様々な角度から「見せる化」させるために、多様な広報・学生募集活動ツールの制作等を行う。
- ・ 高大連携活動では、従来から続けている「人間力コンテスト」を、高校生がチーム

で課題解決に取り組み創造力を養い、自らの可能性を広げ、進路を決めるための学習の場として提供する。

- ・ 創立45周年記念行事に向けて、大学の歴史や創立40年に掲げた人間力教育の成果を社会に発表できる準備を進める。
- ・ 動画コンテンツを用い、研究室での学生の様子やロボットなどのプロジェクト研究を紹介できるようにしていく。
- ・ オープンキャンパスをさらに工夫・改善し、学生や保護者に対する魅力度アップを図るとともに、課外活動において企業や社会人との交流を増やし、NBUの理解者を増やしていく。

入学試験に関する取組み

- ・ 多様な受験生に対応するため、様々なレベルやタイミングの入試を実施する。各入試区分の目的、レベル及び受験者層を明確にする。
- ・ 学費等免除制度は、一定の免除比率を設定し、それを有効活用した上で定員の確保を目指す。
- ・ 専門高校や総合学科を対象とした入試において、特定資格の有資格者に対するプラス評価を行うことで、出願や入学の機会を提供する。
- ・ 近年の受験者数を踏まえ、一部の入試科目の見直しを行う。
- ・ アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの連動性と整合性をより一層図る。
- ・ 災害や感染症など、突発的事項が発生した場合の対処体制の更なる強化を図る。
- ・ 推薦入試での入学生の質の変化に合わせ、人間力育成センターと連携し、入学前課題の見直しに取り組む。
- ・ 平成24年度入試においては、昨年度と同様、推薦入試（AO入試を含む）募集人員を50%以下とすることを遵守する。
- ・ 入試区分ごとに入学生のための入学前準備を検討する。

留学生の募集・広報活動に関する取組み（別科日本語課程と共通）

- ・ 中国協定校等の見直しと関係強化を図り、また新規の開拓を進めていく。
- ・ 昨年度に制定した留学生新特待生制度で、一般応募も学費減免措置の対象枠としたので、これを活用して募集拡大を図る。
- ・ 募集基盤の確保と優秀な学生の確保のため、業務協定を視野に入れて学生募集先を確保する。
- ・ 大分市の友好都市である武漢市への募集活動を大分市国際交流課通じて武漢市事務所等への積極的な働きかけを行なう。
- ・ 韓国は、協定校をはじめ、高校や日本語学校へも学生募集活動を行なう。
- ・ 本学の卒業生を活用した募集活動を積極的に行なう。
- ・ 別科日本語課程については、半期短期研修プログラムの募集を呼び掛けると同時に、本学進学対象者以外の入学の開拓も行なう。また、別科ホームページやパンフレットの作成と配付・配信を行なう。

社会・地域貢献に関する取組み

- ・ 社会・地域貢献の一環として、平成23年度もメディアセンターをはじめ、地域社会に有用な各種公開講座を開催する。
- ・ 学友会による防犯パトロール等学生の地域に密着したボランティア活動をサポートする。
- ・ チアリーディング部、エイサー（沖縄県人会）、サムルノリ・マダン部（韓国人留学生中心）及び吹奏楽部等の地域のイベント等への参加要請に、継続して対応できるよう協力・支援し、社会・地域に貢献する。

(5) 就職活動

『平成21年度大学教育・学生支援推進事業【テーマB】学生支援推進プログラム』にて採択された「就職ポートフォリオを活用した就職力育成プログラム」を継続推進していき就職内定率を向上させる。また九州地区を中心とした企業開拓の推進と低学年から就職意欲の向上を目的とする。

教員に対し就職支援意識の更なる向上を図るため、就職委員を通じてフォローを徹底する。

キャリアカウンセラーを含めた就職活動支援を強化して、非就職活動者の減少を図る。また、SPI対策講座・公務員試験対策講座・就職試験ガイダンス・学内合同企業セミナーなど開催して就職希望者に対する支援を強化する。

ハローワーク・大分県庁・同窓会（一木会）・後援会との連携を強化し、九州地区を中心に企業開拓を推進する。

3年生以下の学生を対象に社会見学会を実施し、早期に仕事の現場を実際に見学することで企業研究や就職活動への意識づけを図る。

留学生に対しては、日本語能力試験N1及びN2合格者とその資格取得意思のある学生を対象として留学生就職ガイダンスを実施し、日本国内で就職を希望する学生へ求人情報の提供や履歴書添削指導・面接指導などを充実させる。

進路開発等の相談室を経営経済学部棟に設置し、経営経済学部の就職支援を活発にする。

大分県中小企業団体中央会、大分県商工会連合会及び大分県商工会議所連合会等との連携を強め、傘下の企業への学生の就職の可能性を探る。

(6) その他

学生生活指導に関する取組み

- ・ 退学者防止として、昨年度に引き続き、学生支援、教務担当、人間力育成センター、入試広報サービス、進路開発センターとリンクして、学生の出席不良者へのサポートを中心に、毎週1回の割合で打ち合わせを行う。また担任、部活指導者、学生相談室と情報を共有化して、出席不良者以外の学生に対応していく。
- ・ 交通事故、薬物対策においては、学生ガイダンス（年間2回）にて関係官庁等外部講

師の講話を実施する等により、周知徹底を図る。特に交通事故対策においては、警察と自動車学校とタイアップして乗車訓練及び運転手の適性検査が出来るシステムによる訓練を実施する。

- ・ 入学時のワクチン接種の確認と同時に、時機に応じた感染症対策を、学内掲示等で注意を促し、手洗い消毒、予防接種等を徹底する。
- ・ 今年度も朝の挨拶運動で学生への挨拶の励行を意識付けると共に、教職員を含めて、今まで以上に自ら挨拶をするような学風を醸成する。また、学生生活の中でも、常にマナーやモラルという点については、教職員による働きかけ及びポスター等の掲示物で注意を促していく。
- ・ 総務局、体育局、文化局を中心に学生の意識の向上を図り、学友会の活動が活発に行なわれるように指導・サポートする。
- ・ 最近の社会現象に応じて、精神的に不安定な学生やコミュニケーションの取れない学生等が多くなってきている。学生支援、保健室、学生相談室及び担任教員が連携して、学生のサポートを行なっていく。月例の学生支援、学生相談室、保健室及び両学部厚生補導委員長の会議を継続実施して、緊密な情報・意見交換のもとに適切な対応をしていく。学生の生活習慣、食生活等についても、保健室からの指導を積極的に行う。
- ・ 留学生に対して、留学生に必要な手続き（資格外活動、運転免許、保険等）及び出席率の向上を更に徹底する。

学内のシステム運用、PC環境ネットワーク環境等に関する取組み

- ・ 今年度も昨年度までと同様に既存の機器、設備、ソフトウェアの導入と運用が業務の中心となるが、平成21年度から開始した中期計画に基づく予算枠をベースに、費用削減と機能向上の両面において、より以上の成果が出せるよう取り組んで行く。

PC教室の更新

- ・ Windows XPからWindows7への切替計画を作成し実行する。

ネットワークの維持・運用と改善

- ・ 平成22年度末に増強した学外Web回線の評価を行ない、更なる対応の要否について検討。
- ・ 次回の主要ネットワーク機器更新の時期に向けて、IPv4アドレス枯渇問題と合せて対応方針を検討する。

教職員PCサポート、他部署業務のシステム化支援

- ・ 教職員PCへのサポート負荷を少しでも軽減する方策として、新規購入時に故障の少ない実績のある機種を推奨する、導入機種を出来るだけ絞って設定情報をコピーして再利用する、重要データのバックアップを教職員に啓蒙するなどの方策を継続して行く。
- ・ デスクネッツ（スケジュール管理システム）の操作説明資料など、利用者向けの説明資料を整備して問合せ数を削減する。

GAKUENとUNIVERSAL PASSPORTのサーバ機とパッケージの更新

- ・ 本年5月で丸5年稼働となるGAKUEN（職員基幹業務システム）とUNIVERSAL PASSPORT（教職員と学生の情報共有システム 略称：ユニパ）のサーバ機計4台を、

業務に影響が少ない8月末に新機種に更新する。また同時に、GAKUENとユニパのパッケージソフトウェアを開発元であるJAST社の最新バージョンに更新する。

- ・ 上記新バージョンの導入により、若干の機能強化と利便性向上が期待できるため、マニュアル等で内容を調査して利用部門への紹介を行なう。
- ・ 現在Kシステムサーバ上で稼働している事務総合システムを、全てGAKUENに移行してKシステムを廃止できるか、入試と学費のシステムを中心に調査に着手する。

各種補助金申請

- ・ 「ICT活用教育研究支援」補助金を中心に、漏れの無いよう丁寧に申請を行なっていく。

2 . 日本文理大学附属高等学校

県南における唯一の私学として、地域中学生の減少という逆風に負けず入学定員の確保を目指す。「すべての責任は教職員にある」「常に生徒のために」という考えを根拠とし、基本的生活習慣を確立させ、学習・生活・部活動等の指導を行う。

(1) 教育活動

基本的生活習慣確立の取り組み

- ・ 身だしなみ指導の徹底
- ・ 時間厳守を徹底させ、遅刻者のデータを管理
- ・ 挨拶運動の徹底
- ・ 交通事故防止のため、マナー指導や長期休暇前後の自転車点検及び防犯登録の推進と施錠の徹底
- ・ 携帯電話の校内持込禁止の徹底と、マナーや不正サイトの危険性に対する指導
- ・ いじめ防止の指導

学力の向上

- ・ 「わかる授業」の実践。生徒に興味関心を持たせ、自ら取り組む姿勢の向上を図る。
- ・ 家庭学習を充実させ、学習への意識向上を図る。
- ・ 義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るため、各教科で工夫を行い、さらに昨年度同様、補習（国語・数学・英語）を実施し、基礎学力の向上を図る。

特別活動の充実

- ・ 生徒会活動において、様々な学校行事を通じ望ましい心身の健康を目指し、規律ある集団行動、責任感や連帯感の定着を図る。また、社会の構成員として勤労の尊さや生産する喜びの体得、社会奉仕の精神を養う。
- ・ 運動部及び文化部の充実、発展。（特に強化部は高大の一環とした指導・強化・連携を図るとともに競技力の向上を目指す）

特別進学コースの生徒の学力向上・進学実績向上

- ・ 0限目（1限前）課題の作成・添削指導。
- ・ 補習の実施。（夏季、冬季、春季休暇中、8限目、第1,3土曜日）
- ・ 対外模試の実施。
- ・ 生徒対象及び保護者対象進学講演会の実施。
- ・ 新入生春季学習合宿。
- ・ 海外語学研修をオーストラリア（ブリスベン）で実施予定。

(2) 広報・生徒募集活動

受験者数、入学者数ともに増やす生徒募集

- ・ 入試制度の見直しとして、受験のしやすさ、募集活動の早期化、専願受験生を増やす工夫を検討する。
- ・ 昨年度の生徒募集の分析について、本校に入学しなかった受験合格生について原因

を探り、その解消に努力する。

- ・ 県南地区とその周辺地区への広報活動の強化として、普通科特別進学コースや部活動の実績の積極的アピールを行なう。地区ごとに効果的な情報の提供をするよう心がける。
- ・ 募集対象の中学生を把握にし、地元の県立高校志望の生徒をいかに取り込むか検討し、実行する。

特別進学コース対策

- ・ 特別進学コース用学内通信「ダイヤモンド」の発行。
- ・ 進学塾対象の説明会を実施。
- ・ 中学校保護者対象学校説明会。
- ・ 中学生対象サマーセミナー。

(3) 進学・就職活動

計画的に学力強化を図り、進路模試を実施することで学力の定着を目指すとともに学年団と協力して社会人としての資質向上に向けた指導を行う。さらに、就職後の離職防止や予防策として就職ガイダンスを行う。

各種進路情報を発信し、生徒の進学、就職意識と意欲の高揚を図る。

日本文理大学附属高校として、日本文理大学その他の系列専門学校と連携を深める。

(4) その他

学生寮について

- ・ 改善すべきところは改善し、寮生の満足度を更に向上させる。
- ・ 寮生数の増加に向けた取り組み（遠隔地における生徒募集）の実施。
- ・ 育ちざかりの生徒に対し、健康に留意した食材の計画的発注を継続する。
- ・ 外部合宿の積極的な受け入れで、寮運営に寄与していく。

3 . 日本文理大学医療専門学校

(1) 教育活動

〔3学科共通内容〕

従来から続けている「学習報告書」を全員に提出させ、担当教員が内容精査し、個別指導に活用する。

総合的に基礎学力を向上させるため、不得意科目の克服を目的に、授業時間外の学生指導を徹底する。

3年生には、国家試験対策として、年数回の模擬試験を実施し、不得意科目の克服に向けた指導を徹底する。また、模擬試験の成績不良者には居残り学習による個別指導を行う。

国家試験対策として、勉強合宿を9月に実施する。

国家試験不合格者に対する支援策として、聴講生制度を利用させ学力向上を図り国家試験合格のための指導を徹底する。

臨床実習施設を確保するため、計画的に病院開拓を行い、次年度以降に備える。

診療放射線学科

個別指導

- ・ 3年生の学習報告書については、国家試験に関連する内容の課題提出とする。
- ・ 3年生には、基礎的な内容の小テストを授業開始前に実施し基礎学力の向上を図る。また、進行表を作成し到達度の把握と実施の徹底を図る。

国家試験合格率90%以上を目標とした支援体制の強化

- ・ 夏期休暇に3年生を対象とした国家試験対策講座を開講する。
- ・ 3年生には、授業時間以外に国家試験対策講座を設け、学力向上に努める。
- ・ 全講義が終了後、国家試験までの期間に国家試験直前対策講座を開講する。
- ・ 国家試験月には土日の学校開放を実施し学習指導を行う。

関連資格の取得

- ・ 診療放射線技師資格とは別に、放射線取扱主任者第1種及び第2種の資格取得を目指し、放課後及び夏期休業中に特別講座を開講し勉強の習慣づけを徹底する。また、上記第2種資格の全員取得を目指すことで、最終目的である国家資格に向けた学習意欲の向上を図る。

その他

今年度より聴講生担当教員を配置し、聴講生制度のサービス向上と合格率の向上を図る。

臨床検査学科

個別指導

- ・ 定期試験の成績不良者や生活態度等に問題のある学生は保護者との連携を図る。
- 国家試験合格率90%以上を目標とした支援体制の強化

- ・ 時間割の空き時間を利用して国家試験対策講座を実施し、授業の補足を行う。
- ・ グループ学習によるお互いの情報交換を実施し、他の学生の学習方法を知ることによって自身の学習方法の見直しを行う。

関連資格の取得

- ・ 2年生以上の学生は、第2種ME技術実力検定試験に挑戦させ資格取得を目指し、放課後及び夏期休業中に特別講座を開講する。

その他

- ・ 意欲的な学習姿勢を持たせるため、医療現場への見学を実施し、将来へのイメージづくりに役立たせる。
- ・ 実習終了後は報告会を開催し、実習での経験を共有するとともに、保護者にもその成果を説明する。
- ・ 意見交換会によって、現場との連携を図り、より充実した実習内容となるよう相互連携を図る。
- ・ 実習室の試薬・備品の管理方法を再徹底する。
- ・ 臨床検査学科のHPを活用し、情報の共有化を徹底する。

臨床工学科

個別指導

- ・ 基礎学力の向上、不得意科目の克服を目的に、希望者に対して授業時間外での学生指導を行う。

国家試験合格率90%以上を目標とした支援体制の強化（5年連続合格率100%）

- ・ 授業時間外にも国家試験対策講座を実施し、学力向上に努める。

関連資格の取得

- ・ 2年生以上の学生全員に第2種ME技術実力検定試験を受験させ、3年生は全員が資格取得出来る様に、放課後及び夏期休業中に特別講座を開講する。

その他

- ・ 医療現場の体験、臨床工学技士の業務内容の把握を目的に、地元医療施設の見学を実施する。
- ・ 本校の教育活動への理解、臨床実習に対する意見を伺うことを目的に、臨床実習先の先生方との意見交換会を実施する。
- ・ 臨床実習期間中に施設訪問を行い、学生の実習状況を把握し、問題点に対して指導を行い、円滑な実習の実施に努める。
- ・ 臨床実習時の学習内容の再確認、パワーポイントを利用したスライド作成及び発表の経験をさせることを目的に保護者参観を実施する。

(2) 学生生活

SHRを毎日実施し、学生指導および伝達事項の徹底を図る。

フレッシュマンセミナーやスポーツ大会等の学校行事を通じて、新入生と教員・在校

生の相互交流を深める。

精神的な悩み・不安を持つ学生に対し、クラス担任が窓口になるが全教職員が対応にあたると共に、日常的に学生の動向に注意を払う。

学生には、担任による個別面談を随時実施し、日常生活の様子を確認するとともに、学業及び学校生活に悩みを抱えた学生への対応を強化する。また、問題のある学生には保護者と連携し三者面談を実施する。

(3) 広報・学生募集活動

中長期計画3年目の目標を達成する。

- ・ 3学科合計で、募集定員の確保を目指す。
- ・ 上記入学生を確保する為、入学試験出願者数300人以上の確保を目標にする。

体験型オープンキャンパスを5月、7月、8月に実施する。参加者が急増しても対応できる体制に実施方法を変更する。

学校見学説明会を、毎週土曜日に実施する。

高校訪問では九州・中国地方に四国の一部を追加しさらに活動範囲を広げる。

入学生の学力を入学前にある程度把握できる入試制度を確立する為、入試区分と試験科目の見直しを行う。

学外で実施されるガイダンスは、過去の実績等を吟味し参加する高校生が多い会場を選定する。また、参加者には本校の特徴を積極的にアピールし、オープンキャンパス及び学校見学説明会への参加勧奨を行う。

実際の広報の現場を想定した研修会を実施する。

ホームページを随時リニューアルし、受験生に最新の情報を提供する。

(4) 就職活動

各医療機関の採用スタイルが「量的確保」から「質的確保」へと変化しており、求められる医療技術者としての資質向上を目的に進路セミナーを各学科で年間10回実施する。

学生数に応じた求人数を確保するため就職先の開拓を行い、各医療機関との連携強化に努め、各学科とも年度内での就職内定率100%を目指す。

各学科3年生担任を中心に就職支援活動として履歴書の書き方、適性検査対策、面接指導を実施する。

(5) その他

中長期改善施策3年目の実施内容の徹底。

- ・ 全学科、国家試験合格率90%以上の達成
- ・ 学生数の充足率の向上
- ・ 学生サービスの更なる充実

平成22年度より実施している学科体制をさらに充実させ、各分掌業務担当を各学科に

配置し学科長主導の下、効率的に業務を推進する。

運営企画部に入試広報業務を移行し、学生募集及び学生増加に伴う諸問題の解決を図る。

退学者を撲滅させる対策を全学科挙げて取り組む。

自己研鑽の推進に努力し、より分りやすい授業内容及び授業力の向上を目指す。

4 . NBU大分美容専門学校

(1) 教育活動

「顧客に選ばれ、オーナーに信頼され、同僚に愛される」資質を有する美容師の育成を目標に、「美のプロフェッショナルとしての未来を拓く人間力の育成」を学校教育目標に定め、夢見る力・挑戦する力・考える力・表現する力・感謝する力の育成を図る。

生徒自らが参画する諸行事を提供して、「夢を発見し、夢に挑戦し、夢を実現する」喜びや苦しさを体験させる。(ビューティフェスティバル等)

各種コンテストでの上位入賞を目指して生徒自らが真摯に努力する姿勢を打ち出す環境作りを行う。(アジアビューティコンGRESS等)

働くことの意義や顧客に感謝する心等についてじっくりと学ぶ機会を提供する。(インターンシップ等)

国家試験対策プロジェクトを立ち上げ、100%合格を目標とする。

- ・ 筆記試験、実技試験指導者対策を徹底する。
- ・ 教員全員が連携を取り合って質の高い授業を提供する。
- ・ 生徒の苦手課目の克服を図る指導法を研究し実践する。
- ・ 美容実習において「基礎・基本」指導を見直し徹底を図る。

(2) 学生生活

「NBU PRIDE」を生活指導の根幹に据えて、生徒の挨拶、服装、清掃、その他美容学生に求められる資質の向上に努める。

学科や学年の枠を超えた生徒間交流を図る学校行事を提供(新入生歓迎会・スポーツ大会等)

教職員は生徒情報に関して連絡を密にするとともに、精神的な不安や悩みを抱く生徒に関する情報を共有して、指導に差異が生じることのないように研修に取り組む。

(3) 広報活動

中長期改善計画達成を念頭に置いた本校の学科再編計画を平成24年度～平成25年度にかけて実施する。学科改編の意義とそのメリットについて高校生・保護者・高校教師への周知を図り、理解を得て、出願者増を確保する取り組みを行う。

これまでの美容芸術科とネイル・メイク・エステ科を一体化した「美容総合科」への出願者数は60人を目標とする。

- ・ 体験型オープンキャンパスを10回開催し、延人数400人、実人数150人参加を目標に積極的に参加を呼び掛ける。
- ・ 出願者が実人数の40%以上を確保できるように、オープンキャンパスの内容やシステムについて検討し必要な改善を加える。
- ・ 高校訪問は計画的に且つ効率よく実施し、高校側の信頼を獲得するように努める。多様な特別講座を随時開催し、「NBUに行けば何かあるぞ!」とのワクワク感・期待

感を高校生に抱かせる。

サロンや異業種との連携を強めることで「NBU」の存在感を高める。

(4) 就職活動・キャリア支援

美容業界の課題の一つは高い離職率。厳しい労働環境に耐えきれずに早期退職する者が多く、卒業後5年で美容業界に残っている者は10%以下といわれている。そのような美容業界の現状を踏まえ、本校のキャリア教育指導方針は、「10年後20年後も在職して活躍している人材の育成」「安易に離職できない職場を紹介」として、その子が最も活躍できる環境に就職させることを取り組む。

そのうえで、企業説明会、職場訪問、就職面接等を通じて労働の環境、オーナーの人柄や経営方針等の情報を生徒に与える。また、各種認定試験で高いグレードの合格者を出すように、対策講座を更に充実させる。